

No.240

2020年
9月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 9月24日(木)まで

★メイン展示

『敬老の日 読書のすすめ』

今月の展示は、敬老の日になんで「敬老の日 読書のすすめ」と題し、

- ・医療系小説
- ・9月21日は敬老の日
- ・読書で学ぶ人生を心ゆたかに生きるコツ

という3つのコーナーを用意して、みなさまをお待ちしています。

ぜひお立ち寄りください。



●メイン展示図書(抜粋)

「十字架のカルテ」・「鹿の王 上・下」
「人魚の眠る家」・「ナオシカ記念病院」
「医者が考案した『長生きみそ汁』」 「老筋トレ」
「素敵な人のシングルライフ」・「老筋トレ」
「ハッピーシニアの参考書」・「老～い、どん！」
「おばあちゃんが小さかったとき」

★サブ展示

『奥様の日』

9月30日を「0930」として、「お(0)く(9)さ(3)ま(0)」(奥様)と読む語呂合わせから『奥様の日』としています。奥様の日にちなんで奥様はもちろん女性におすすめの本を集めました。



●サブ展示図書(抜粋)

「ふたりの桃源郷」・「妻のトリセツ」
「私は私のままで生きることにした」
「家事のワンオペ脱出術」・「結婚一年生」
「悦な収納のすすめ」・「働く女子と罪悪感」

◀ 図書館ご利用時のお願い ▶

新型コロナウイルス感染症対策のため、図書館にご来館の際は以下の点にお気をつけくださいますようお願いいたします。

- 発熱・咳など、体調に不安のある方はご利用をお控えください。
- 入口での手指の消毒をお願いします。
- マスクの着用・咳エチケットの励行にご協力ください。
- 長時間の滞在をお控えください。
ご不便をおかけしますが、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

ベージュ

谷川俊太郎 著
新潮社

時代を超え、子どもから大人まで幅広く愛されている詩人・谷川俊太郎。そんな著者が88歳を迎え、自ら選び抜いた未収録作品や書き下ろしを加える31篇を収めた詩集。

ストレートな言葉が並べられる一方、読んだ後も考えさせるものや繰り返し読みたくなるものなど、パラパラめくるだけでも新鮮な言葉に出会えるかもしれません。

(樫田)

(児童)

ベッドのなかはきょうりゅうのくに

まつおかたつひで 作・絵
童心社

夜、ベッドの中にもぐるとそこには恐竜の世界が広がっていた。

逃げおくれた1匹の小さな恐竜の子どもと出会い助けたことで、はぐれてしまったお母さんを探す旅に出ます。

小さな恐竜は、無事にお母さんと出会えたかな？

いろいろな恐竜と出会い、夜の恐竜の国で不思議な探検をするお話です。

(岡村)

(一般)

生き物が大人になるまで

稲垣栄洋 著
大和書房

成長すると小さくなるペンギン。イモムシの成長を早める成分を含んだイノコヅチの葉。最後は子どもに自分を食べさせるクモのお母さん。本当は踏まれても立ち上がらない雑草。など様々な生き物の生態を解説しながら人間にとっての“成長”とは何かを考えていきます。生き物にまつわる様々な不思議…。そこには驚きと納得の成長戦略があり、知れば私たち人間の生き方のヒントが見えてきます。人生観変わるかも？ぜひご一読を。

(山口)

(児童)

牧野富太郎

清水洋美 文／里見和彦 絵
汐文社

植物と生き、数多くの新種の発見・命名を行い、日本植物学の父と呼ばれるようになった、高知出身の牧野富太郎。

研究のため、どんなに苦勞しても、家族を巻き込んでも絶対に離さなかった植物への愛情。

植物と共に歩んだ九十四年の人生を描いた一冊になっています。

牧野富太郎の知らなかった一面を知ることができるのではないのでしょうか。

(尾崎)

命の尊厳

山下量子

先日、大事に育てていたヒヨコ3匹が襲われた。鶏小屋の屋根から忍び込んだ蛇が犯人のようで、小屋の隅に息をひそめるアオダイショウと、鶏たちの羽が散乱した跡があった。

時を同じくして、庭先で大切に見守っていたアゲハチョウの幼虫が、もうすぐサナギになる、というところで、何者かに襲われ、跡形もなく消えてしまっていた。

この2つの出来事は、私をとっても悲しい思いにさせた。

自然界は厳しい。

生まれても生き続けるには、外敵が多すぎる。それでも、その敵の中をかいくぐり、鳥の雛も、蝶の幼虫も、生き抜いたものはやがてりっぱに成長して空を舞ったり、卵を産んだりするのだろう。

大事なヒヨコや幼虫を襲った外敵たちを憎いかという、そうは思えなかった。彼らは悪気があつて襲ったわけではないからだ。

生きていくため。食べるためだった。

人間だって、生きていくためにさまざまな命を食べる。

結局、命は命でつないでいるのだ、そんなことを、考えさせられた。

外敵の脅威にさらされている生き物と違って、人間には、脅威が少ない。害虫や害獣といわれるものから身を守る家をつくり、時には薬剤をまいて、時には仕掛けをして捕獲して、時には銃などの武器を使い、そうやって自らの生活を守ってきた。文明の力を身につけて。

しかし、その文明の力によって、人は新たな脅威にさらされていると思う。

記憶に新しいのは、テレビ番組で活躍していたプロレスラーの木村花さんの死の報道である。

原因はSNSなどによる誹謗中傷を苦に自殺したと言われている。

実際に命をおびやかされる危害を加えられたわけではないのに命が消える。自死という形によって。

なんと悲しいことか…。

ネットは、家のパソコンからもつながる。携帯やスマホからもつながる。その便利さが、害獣に対する家などの防御をすりぬけて、直接、個人に危害を及ぼす。

防御する術がないのだ。

だから、このネット社会では、ネットで受ける危害を取りしめる新たな防御策が必要になると思う強く思う。

しかし、本当の原因はそれだけではない。こういった自殺は、自殺した“その人自身”が自分の命への脅威となったということ。自らが自ら命を死においやる“行動”をさせた。自らが危害を加えたということだ。

「死ねばいいのに」「死ね」「生きている価値がない」「社会に毒だから消えて」

もし、そんな辛辣な言葉をあびせられ続けたら、人は死にたくもなるだろう。私だってそう思うかもしれない。

けれども、その言葉に打ち勝ち、命を絶つ以外の選択肢はなかったのか…。

そもそも、誹謗中傷といっても、それらの言葉は、本当にその人に向かって発せられたのだろうか？

本当に、木村花さん本人にそう思って発したのだろうか？

私は違うと思う。

それらの言葉は、コロナ禍のせいか、うっぷんがたまり、誰かをおとしめたかったり、非難してなんだか自分が力関係で優位に立ったような気分になりたい人間が「防御策を持たない人間」に対して、ただ浴びせたかっただけに思える。つまり「誰でも良かった」のだろう。きっかけがあったから。有名な人だったから。それだけに思える。

それは、ただ、机上でネットに言葉を連ねるだけの「一方的ないじめ」だ。書くだけなら相手から返り討ちにあうこともない。命を張って、捕食するか、捕食されるかの自然界の戦いとはまったく違う。危険のないところで無責任に行う卑怯な行動と思う。

そもそも、そんな心ない言葉によって、人の命は決まるのだろうか。

ただ見もしらぬ人に、「死ね」と言われたから死ぬべき命なのか。

それは絶対に違うと思う。

たとえ100人、100万人が自分に死ねと言ったとしても、自分は「生きる」と言える強さ。

自分が尊い命であると心から言い切れる強さ。さまざまな命をつないで、いま、生かされている自分の命の尊厳を知ること。

自分の命へ責任を持つということ。

自分の命を守り通すということ。

その強さこそが今の社会に必要なのではないかと私は思う。

防御の最後の砦はその人自身の尊厳なのだ。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「物語の海を泳いで」 角田光代
 0 「人生の教養を高める読書法」 武田鉄矢
 2 「もっとどんねんな日本史偉人伝」 NHK『DJ日本史』制作班
 3 「コロナ後の世界」 ジャレド・ダイヤモンドほか
 3 「寄付金・クラウドファンディングの集め方」 佐藤しもん
 5 「海洋プラスチックごみ問題の真実」 磯辺篤彦
 5 「だしの研究」 山本晴彦ほか
 7 「ヒロシのソロキャンプ」 ヒロシ
 9 「ページュ」 谷川俊太郎
 9 「スキマワラシ」 恩田陸
 9 「四畳半タイムマシンブルース」 森見登美彦
 9 「テロリストの家」 中山七里
 9 「ハリネズミは月を見上げる」 あさのあつこ
 9 「タクジョー!」 小野寺史宜
 9 「二重拘束のARIA」 川瀬七緒
 9 「トツ! SAT」 麻生幾
 9 「三世代探偵団 3 生命の旗がはためくとき」 赤川次郎
 9 「口福のレシピ」 原田ひ香
 9 「二百十番館によろこそ」 加納朋子
 9 「類」 朝井まかて
 9 「残照の剣」 辻堂魁
 9 「パチンコ 上・下」 ミン・ジン・リー
 9 「ボーン・クロックス」デイヴィッド・ミッチェル

※左側の数字は図書の分類を表しています。
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「大人は知らない今ない仕事図鑑100」 澤井智毅監修
 「カサうしろに振るやつ絶滅しろ!」 氏田雄介
 「公務員という仕事」 村木厚子
 「小学うんこ英単語1500」 古屋雄作
 「3分でおやすみなさいディズニー10のおはなし」 講談社編
 「ラストで君は「まさか!」と言う 見えない秘密」 PHP研究所編
 「レストランのおばけずかん ふらふらフラップ」 斉藤洋
 「ほねほねザウルス 23 まもれ!マンモスたちのだいち」 カバヤ食品株式会社原案・監修
 「にゃんたる刑事」 カワダクニコ

絵本



- 「うみだうみだ」 せなけいこ
 「ねこになっちゃった」 角野栄子
 「ベッドのなかはきょうりゅうのくに」 まつおかたつひで
 「こんにちは!わたしのえ」 はたこうしろう
 「きみの声がききたくて」 オーウェン・ゴルフアー
 「トラといっしょに」 ダイアン・ホフマイアー
 「ひろいひろいひろいせかいに」 ルイス・スロボドキン
 「きつとどこかに」 リチャード・ジョーンズ

★このほかにもたくさんのお図書が入っております。
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 は休館日
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp